



校長室だより

令和6年度

6月28日

NO.18

にっこ山であそぶ、守る、挑戦する。素梨っ子の挑戦は…



先日、本屋に行くと、発行から五十周年を迎えた絵本「おいしいのぼうけん」が店頭に並んでいました。昔、大好きでよく読んでいた絵本で懐かしく思いました。保育園でけんかをして、押し入れに閉じ込められたさとしとあきらの大冒険が描かれたファンタジーで、心を躍らせたものでした。

子供にとって、冒険はドキドキ・ワクワクするものです。と同時に、初めて出会う出来事や環境、人・こと・ものに向かっていく「冒険心」は大人になると忘れがちな、それでいてこれからの時代に立ち向かっていくのに、必要で大事な力となります。

六年生の学校プロジェクトの今週のテーマは、学校林の「にっこ山について知ろう」でした。二十五日には一、二年生を招いて、「にっこ山」で遊びました。少し涼しい坂道を登り、「にっこ山」名物のブランコやハンモックを楽しみました。

一年生にとつてにっこ山での遊びは、「冒険」とも言えるでしょう。他学年も、看板ラリー(看板裏に書かれた文字を巡るラリー)に取り組みました。「何があるのか」のドキドキ・ワクワク感は、何かに挑戦する気持ちでもあります。そしてこうした冒険や挑戦を乗り越えないと、満足や充実も手に入られません。

「にっこ山」での遊びに先駆けて、十九日には山仕事のサポーターを招いて、素梨小恒例の「里山レスキュー」が行われました。素梨の自然や暮らしを守る目的の、里山の保全活動ですが、子供の「冒険心」も支えてくれました。「冒険」とは無謀に立ち向かうことでなく、そこには支援や準備があります。

日頃の学校生活や授業も、大きな意味で「冒険」です。分からないことに立ち向かうことができる気持ちも、私たちは育てていかなければなりません。まもなくやってくる夏休み、家庭や地域でもぜひ「冒険・挑戦」してほしいと思います。

- ・紹介の本は「おいしいのぼうけん」(ふるた たるひ/たばた せいいち: 童心社)です。
- ・里山レスキューでは、山仕事サポーターの鈴木さんと川澄さんがブランコを補強してくださいました。